

AI & Analytics ニュースレポート

発行日	2025 年 4 月 22 日 (火)
選定ニュースの配信期間	2025 年 4 月 1 日 (火) ～2025 年 4 月 15 日 (火)
次回発行日	2025 年 5 月 6 日 (火)

【全体の所感】

期間前半では、前回に引き続き、3 月 25 日に発表された ChatGPT の新しい画像生成機能が話題となっています。特に「ジブリ風画像」に代表される著作権問題を扱った記事が多く見られました。「作風」や「画風」というスタイルは著作権の対象にならないというのが現行の法律ですが、(2)や(14)のニュースにあるように、スタイルを模倣した画像が大量に生成されることは、クリエイターにとって不快であることは想像に難しくありません。技術の進歩に法律が追いつかない今、利用者側のモラルが強く求められていると感じます。

期間後半では、ChatGPT のメモリ機能が拡張され、過去の全ての会話履歴を参照できるようになったというニュースがありました。これにより高度にパーソナライズされた応答が可能になり、利便性が向上することが期待できます。それに留まらず、(19)のニュースにあるように、将来的には AI がユーザーの全てのライフログを学習し、その人の人格を定義したクローン AI が誕生する可能性も指摘されています。SF のような話がフィクションではなくなる未来を想像させられますが、大きな利便性が得られるのと同時にリスクも潜んでいることは認識しなければいけません。

期間終盤では、ChatGPT の新たなモデル GPT-4.1 の発表もありました。最近の OpenAI による新機能の矢継ぎ早の発表は、本当に驚くばかりです。こうした発表で注目度を高め、(3)のニュースにあるように週間利用者数が一気に 5 億人を突破する要因の一つになったのだと思います。

他に私が注目した記事は、(8)のニュースにある日清食品の全社的な生成 AI の導入の取り組みです。個人的には、日本で最も生成 AI の活用成功している企業の一つだと感じており、以前から注目しています。2023 年 4 月の入社式で社長が ChatGPT を使ったメッセージを披露したのを皮切りに、CIO 主導でその 3 週間後には社内 AI チャットをローンチしたという、圧倒的なスピードの速さに驚きます。社内利用率を向上させる工夫や地道な努力も、他社の好例になると感じました。

また、(12)のニュースにあるように生成 AI が東大の理Ⅲの合格水準に達したという事実も興味深いです。今後は「以下の問題に解答しなさい。」という、これまでの形式の試験問題に人間が答えることの意義が問われてくるかもしれません。むしろ今後は人類が AI を使うことを前提とし、「この答えは AI によるものです。正誤を判断し、誤りがあれば修正しなさい。」といった形式の問題の方が意義があるかもしれません。これからは AI の回答には誤りがあることを認識し、その誤りを正しく見抜く力が重要で、その力は結果的に自力で正答できる能力を証明していることになります。

データアナリティクスに関するニュースでは、(13)のニュースでガートナーがデータ&アナリティクスのトレンドを発表しています。ここではエージェンティック・アナリティクスが取り上げられており、今後 AI によるデータ分析の自動化が大きなテーマとなるかもしれません。実際に最近では生成 AI を搭載したデータ分析ツールもよく見かけるようになりました。デモで紹介されるようなデータ分析の自動化が”本当に”できるなら革命的ですが、AI は完璧ではないことを冷静に考えれば、当然うまくいく場合もあればうまくいかない場合もあるはずです。AI のやっかいなところは、このうまくいく場合もうまくいかない場合も、その理由が分からず、挙動を完全にコントロールできないことです。ドラえもんのように、「こんなこといいな できたらいいな」という願望や理想はありますが、残念ながら「みんなみんなみんな かなえてくれる」とはならないのがリアルな AI です。もう何でもできてしまいそうな”雰囲気”は出ていますが、実際に完全ではないから OpenAI も Google も Anthropic も DeepSeek も精度を競い合っているわけです。(12)の AI が東大理Ⅲに合格したニュースの科目得点の内容や、(20)の GPT4.1 のニュースのベンチマークスコアの内容を見れば、精度は向上しているものの、当然 100%の完全ではないことは明らかです。元々データ分析は、客観的な意思決定の手段ですが、分析が自動化されることでかえってその客観性が損なわれてしまわないか、AI で自動出力された結果で重要な意思決定を本当にしていいのか、いろいろと懸念を感じてしまいます。データ分析も、それを活用した意思決定も、そのアルゴリズムや思考プロセスは、すぐに自動化できるほど単純ではないはずだと個人的には思っています。(4)の Amazon の AI エージェントのニュースでは、派手なデモよりも信頼性を重視したとあるように、データ分析の自動化も、デモでは夢のように感じるツールですが、それはどんなケースでも毎回うまくいくものではないという、AI の原理を冷静に捉えた上での活用が求められると感じます。

4 月 13 日に大阪・関西万博が開幕されました。未来の社会を想像することはワクワクしますし、それが技術の進化の重要な羅針盤となりますが、未来は今ではありません。未来の技術を実現するためには、多くの課題やリスクがあり、それを認識し、一つひとつを地道に解決していくのが今であり、これからです。生成 AI の進化は、社会のあらゆる分野に変革をもたらしますが、可能性とリスクの両方を内包しています。社会の熱狂に振り回されない冷静さがますます重要になっていると感じます。

(1) ChatGPT の画像生成機能が大幅に進化

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 1 日

【概要】

この記事は、OpenAI の ChatGPT の画像生成機能の進化について書かれた記事です。従来は DALL-E 3 を使用していた画像生成が GPT-4o に統一され、より一貫性と精度のある出力が可能になりました。特に、これまで苦手とされていた文字描画やキャラクターの一貫性、図の正確な描写において大幅な改善が見られています。画像のリアリティも高まり、以前は AI 特有の不自然な光沢などで識別できた「AI らしさ」が目立たなくなっています。プロンプトとの整合性も向上し、具体的な指示に忠実な画像生成が実現されるようになりました。一方で、著作権や安全性の問題がますます注目されます。

(2) ChatGPT のジブリ風画像の生成が浮き彫りにする著作権の問題

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 2 日

【概要】

この記事は、ChatGPT の新たな画像生成機能を用いた「ジブリ風イラスト」が注目を集める一方で、著作権侵害の懸念について書かれた記事です。OpenAI の新たな画像生成機能は、特にジブリ風の作風の生成が世界的に話題となりましたが、「クリエイターの権利を侵害している」との声が広がりました。現在の著作権法では「ジブリ風」といったスタイルは保護されないものの、AI 時代の著作権のあり方を見直すべきという声が、メディアやアーティストを中心に高まっています。実際に大手 IT 企業は著作権の訴訟を抱えていますが、トランプ政権では IT 業界側に有利な方向に政策が進みつつあるようです。

(3) ChatGPT の利用者が世界で 5 億人を突破

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 3 日

【概要】

この記事は、ChatGPT の週間アクティブユーザーが全世界で 5 億人を超え、特にここ 3 カ月で 30% 以上急増したことについて書かれた記事です。今年に入って相次いで公開された新機能がこの急成長をもたらしたと分析されています。推論に特化した軽量モデル「o3-mini」、ウェブ操作が可能な AI エージェント「オペレーター」、専門的なリサーチが可能な「ディープリサーチ」、そして感情知能に優れた「GPT-4.5」のプレビュー公開などが挙げられます。特に注目を集めたのが、ジブリ風の画風を再現できる画像生成機能です。この機能が公開されてから、OpenAI のサム・アルトマン CEO は「1 時間で 100 万人の利用者が増えた」と X で発言しました。OpenAI の売上は 2029 年までに 1250 億ドルに達するとの予測もあるようです。

(4) アマゾンの AI エージェントモデル「Amazon Nova Act」

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 3 日

【概要】

この記事は、アマゾンが発表した新たな AI モデル「Amazon Nova Act」について書かれた記事です。アマゾンは汎用人工知能（AGI）の研究所「AGI SF Lab」を通じて、判断能力を高めた AI モデル「Amazon Nova Act」を開発し、その性能が複数のベンチマークで OpenAI や Anthropic のモデルを上回ったと報告しました。アマゾンの戦略は、信頼性の高いエージェントの開発に重きを置き、派手なデモよりも実用性を重視しているそうです。アマゾンは生成 AI の対応には出遅れましたが、最近はこの分野での巻き返しを図り、AI 市場のダークホースとして浮上しつつあります。

(5) ChatGPT の新たな画像生成機能が公開 1 週間で 7 億枚を生成

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 4 日

【概要】

この記事は、ChatGPT の新たな画像生成機能が、公開から 1 週間で 1 億 3000 万人以上のユーザーに利用され、7 億枚以上の画像を生成したことについて書かれた記事です。特に SNS では「ジブリ風」の画像生成が人気を集め、サーバー負荷が高まったため一時的に利用制限がかけられるほどでした。OpenAI のサム・アルトマン CEO は X で「GPU が溶けそうだ」と冗談交じりにコメントし、予想を超える需要の大きさを表現しています。

(6) ChatGPT の画像生成機能で生成されるフェイク画像による犯罪リスク

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 4 日

【概要】

この記事は、ChatGPT の新しい画像生成機能により、偽画像が簡単に作成できるようになった現状とリスクについて書かれた記事です。ChatGPT の高精度の画像生成機能は、「ジブリ風画像」で見られる著作権の問題だけでなく、さまざまな詐欺行為に利用されるリスクが指摘されています。例えば、ハーバード大学の卒業証書や、紙のシワや汚れまで再現したレシートの偽画像を高精度に簡単に生成できることが示されました。ハーバード大卒という信頼を得れば別の詐欺行為につながるリスクがあり、偽のレシートは不正会計につながるリスクがあります。現状ではこうした高性能のフェイク画像の検知が難しく、当面はユーザー側での対処が求められますが、抜本的な対策が急がれます。

(7) マイクロソフトのデータセンタープロジェクトが縮小

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 4 日

【概要】

この記事は、マイクロソフトが AI に関連するデータセンターの一部プロジェクトを世界各地で停止・延期していることについて書かれた記事です。マイクロソフトは、一部計画の見直しは戦略の柔軟性を示すものであり、AI 需要自体は拡大し続けていると強調しています。しかし、一部の投資家は、現行の AI サービスの需要予測では、マイクロソフトの大規模な設備投資を正当化できないと懸念しています。中国の AI 企業 DeepSeek が少ない資金で高性能な AI を開発した影響もあり、AI の処理は以前考えられていたよりも演算負荷が軽くなることが指摘され、将来的にデータセンターが供給過剰となる可能性も指摘されています。

(8) 日清食品の社員専用 ChatGPT の全社的導入による効果

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 4 日

【概要】

この記事は、日清食品グループが社員専用 ChatGPT として社内向けに導入した生成 AI ツール「NISSIN AI-chat」の活用事例と効果について書かれた記事です。導入のきっかけは 2023 年 4 月、入社式で CEO が ChatGPT を用いたメッセージを披露したことにあります。その直後に CIO の成田敏博氏が主導してプロジェクトが立ち上がり、3 週間後には「NISSIN AI-chat」が公開されました。営業部門の活用例を全社に展開し、150 種類以上のプロンプトテンプレートを用意するなどの工夫により、利用率は 50～60% 程度まで高まりました。これらの取り組みにより、社員 1 人あたり年間で約 79 時間、18 万円相当の業務削減効果があったとされています。

(9) 火炎瓶やマルウェアの作成方法も回答してしまうディープシークの安全対策の甘さ

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 6 日

【概要】

この記事は、中国の新興企業ディープシークの生成 AI に対する安全性の懸念について書かれた記事です。ディープシークが 1 月に公開した生成 AI 「R1」では、悪用リスクを検証したところ、火炎瓶の作成方法やマルウェアの設計図といった、犯罪に利用され得る情報を出力することが確認されました。他の生成 AI では同じ指示文に対して回答が拒否された一方で、R1 は出力を許容したため、安全対策が不十分との指摘がなされています。

(10) ChatGPT の新たな画像生成機能を実現する自己回帰モデル

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 7 日

【概要】

この記事は、2025 年 3 月 25 日に ChatGPT に導入された新しい画像生成機能と、それを実現する自己回帰モデルについて書かれた記事です。この機能では生成できる画像の幅が大きく広がり、画像のスタイルの変更や既存画像の細かい加工などがチャット感覚で可能となりました。完全ではないもののキャラクターの後ろ姿まで生成することもできます。技術的には、OpenAI が公式に詳細を明らかにしていないものの、従来主流だった一気に全体を生成する「拡散モデル」ではなく、テキスト生成に用いられる逐次処理の「自己回帰モデル」をベースにしていると見られています。これにより従来モデルでは難題だった画像の中に文字や文章を書くというタスクが可能になったと考えられています。専門家は、自己回帰モデルと拡散モデルの 2 段階処理によって、高精度な画像生成と速度の両立が実現された可能性があるかと推測しています。

(11) 生成 AI ツールの人気ランキング

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 8 日

【概要】

この記事は、500 人以上の投票で決定した、生成 AI ツールの人気ランキングについて書かれた記事です。1 位は OpenAI の ChatGPT で、自然な対話やプログラミング支援などの幅広い活用が評価されました。2 位はリアルタイム検索に特化した Perplexity AI、3 位は長文処理と安全性の高さが評価された Claude でした。

(12) 生成 AI が東京大学理科三類の合格水準に到達

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 8 日

【概要】

この記事は、OpenAI の ChatGPT と中国の DeepSeek を用いて、2025 年実施の東京大学入試問題に挑戦し、理科三類の合格水準に到達したことについて書かれた記事です。ChatGPT は 550 点満点中 374 点を獲得し、合格最低点 368 点を上回りました。DeepSeek も 362 点と健闘しました。特に英語では両モデルとも 90 点以上の高得点を記録しましたが、数学では図形や論証問題、国語では小説読解で課題が残りました。AI の数学力は昨年から大きく伸びた一方、人間特有の直感や推察力が問われる問題には限界があると指摘されています。

(13) ガートナーが 2025 年のデータ & アナリティクスのトレンドを発表

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 9 日

【概要】

この記事は、ガートナー・ジャパンが発表した 2025 年のデータ & アナリティクス（D&A）に関する主要トレンドについて書かれた記事です。今の世界は AI による価値創出に焦点を当てていますが、引き続きデータ品質の管理やガバナンスは欠かせない課題です。D&A リーダーはトレンドを踏まえながら、適切な戦略を選択する必要があります。主要なトレンドには、データに基づいた意思決定を行うソリューションとなるデータ・プロダクト、AI エージェントでデータの分析と洞察を行うエージェンティック・アナリティクス、小規模言語モデルによる特化型 AI、複数 AI やデータサイエンスの手法を統合したコンポジット AI などが紹介されています。

(14) ジブリ風画像を生成する AI のグレーゾーンとモラル

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 9 日

【概要】

この記事は、生成 AI による「ジブリ風」「ディズニー風」などの作風模倣が著作権侵害にあたるのかについて書かれた記事です。法的には「作風の模倣は自由」とされる一方で、AI による模倣は一瞬で生成され、それが大量に拡散されれば、クリエイターの創作の尊厳や魂を傷つける可能性があります。法律だけでなく、技術の進化や社会のモラルも含めた総合的な視点が求められ、創作の権利と自由のバランスを見直す時期に来ていることが強調されています。

(15) ロボットの脳となるフィジカル AI

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 10 日

【概要】

この記事は、物理的な環境理解を通じて、ロボットの自律的な行動を可能にする「フィジカル AI」について書かれた記事です。フィジカル AI とは、重力や摩擦など現実世界の物理法則を AI が学習し、それに基づいてロボットが自動で動作する仕組みで、生成 AI の次のステップとも言われています。特に NVIDIA が主導的な役割を果たしており、フアン CEO は「三次元世界の理解こそが AI の新時代を切り開く」と語っています。特に自動運転分野では、めったに起きない事故のシナリオも繰り返しシミュレーションできるようになり、自動運転の安全性を高めることにつながります。

(16) ChatGPT が過去のすべての会話履歴を参照して応答可能に

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 11 日

【概要】

この記事は、OpenAI が ChatGPT のメモリ機能を強化し、ユーザーとの過去の全会話履歴を参照できるようになったことについて書かれた記事です。これまで ChatGPT が記憶できる情報量は限られており、記憶してほしい情報はユーザーが明示的に指示する必要がありました。4 月 10 日のアップデートでは、過去の会話履歴すべてを文脈として参照できるようになり、ユーザーの状況や好みに応じたよりパーソナライズされた一貫性のある回答が可能になりました。たとえば、これまでの会話履歴を参照して、ユーザーの人間性を評価することもできます。

(17) サントリーの成功事例に学ぶデータドリブンな組織体制

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 11 日

【概要】

この記事は、サントリーがデータ分析と部門間連携を通じて、営業を強化し売上向上を実現した取り組みについて書かれた記事です。サントリーでは、従来の属人的な営業スタイルから脱却し、買データに基づく提案型営業の体制を整えました。マーケティング部と営業部が ID-POS データを共有し、リアルタイムで分析・フィードバックを行う仕組みを整備し、両部門が共通の目標に向かって柔軟に戦略を調整する体制を構築しています。成功した営業事例は「勝ちネタ」として社内に共有され、他部門にも横展開されることで全社的な知見の蓄積が進んでいます。

(18) ChatGPT の全過去会話の参照における利便性とプライバシー懸念

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 12 日

【概要】

この記事は、ChatGPT がすべての過去会話を横断的に参照できるようになったことと、それに伴う利便性向上とプライバシーに関する懸念について書かれた記事です。この機能により、ユーザーの関心や会話のトーンなどを継続的に反映した応答が可能となりました。一方で、AI が「常に聞いている」かのような感覚に対し、専門家や投資家からは慎重な意見も出ています。また、過去のやり取りが意図せず評価や応答に影響するリスクも指摘されており、過去の情報がどのように活用されているのか把握できる手段が求められます。

(19) ChatGPT のメモリ機能の拡張がもたらす人格定義とクローン AI の誕生

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 13 日

【概要】

この記事は、ChatGPT のメモリ機能の拡張によって AI が人格を定義するようになる未来像とそのリスクについて書かれた記事です。2025 年 4 月のアップデートにより、ChatGPT は過去の会話ログを参照し、ユーザーの個性や嗜好など、ユーザーの特性を反映した応答が可能になりました。この機能強化はパーソナルアシスタントとしての性能を高める一方、誤った抽象化やバイアスの固定化、記憶のブラックボックス化、プライバシー侵害などのリスクも伴います。ユーザーの何気ない発言もメモリに記録され、それに基づく誤った推論が繰り返されてしまうかもしれません。また、将来的に AI がユーザーの膨大なライフログを丸ごと学習すれば、AI が人格メモリを持つ可能性も指摘されています。そうすると、AI エージェントから一歩進んだクローン AI が誕生し、本人の代わりに発言・判断する社会も想定されています。このメモリ機能は地味だが AI の進化の核心であると言及されています。

(20) OpenAI が 100 万トークン対応の GPT-4.1 の API を公開

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 15 日

【概要】

この記事は、OpenAI が 2025 年 4 月 14 日に発表した最新 AI モデル「GPT-4.1」について書かれた記事です。GPT-4.1 は最大 100 万トークンの超長文処理に対応し、従来モデルと比べてコーディング性能や命令追跡能力が大幅に強化されています。特に、GitHub のコーディング能力測定テストでは、GPT-4o の 33.2% に対し、GPT-4.1 は 54.6% のスコアを記録し、難度の高いプロンプトへの対応力も向上しました。軽量モデルの「mini」「nano」も同時に提供されました。現在は API での提供に限定され、ChatGPT では利用できませんが、GPT-4o への統合が段階的に進む見込みとあります。

(21) GPT-4.1 の特徴と他の AI モデルとの比較

ニュース記事のリンク

配信日：2025 年 4 月 15 日

【概要】

この記事は、OpenAI が発表した最新の AI モデル「GPT-4.1」について、その特徴の解説や他の AI モデルとの比較について書かれた記事です。GPT-4.1 は GPT-4 の後継として 2025 年 4 月 14 日に発表され、推論の安定性やマルチモーダル処理能力が向上し、人間の上位層レベルに匹敵する性能を示しています。特に最大 128K トークンの長文処理に対応できる点が大きな進化とされています。他社 AI と比較すると、GPT-4.1 はオールラウンドで高い汎用性がありますが、特定の分野では他のモデルが優位な場合もあり、用途に応じた選択が成功の鍵になるとされています。